



p4cみやぎ 10月研修会報告

第3回

p4c みやぎ定例研修会（オンライン）

第3回 p4c みやぎ定例研修会が、10月26日（水）にオンラインで実施されました。

研修Ⅰでは、ハワイ大学大学院生の渡邊文さんから『第20回子どもの哲学国際学会事務局からの報告』をいただき、研修Ⅱでは、あらかじめ参加者から寄せられた問いをもとに、3つの分科会で p4c と情報交換が行われました。国際学会運営の裏側という興味深いお話が聞けた貴重な研修でした。

【研修Ⅰ】

話題提供：第20回子どもの哲学国際学会事務局からの報告

講師：ハワイ大学大学院生

渡邊 文さん

・ICPIC 開催をするにあたってのむずかしさ

今回の国際学会開催に際し、苦慮した点としては、大会で使用する言語、通訳の問題、時差を含むオンライン参加者への配慮、海外からの参加者へのビザ対応や参加費をクレジットカード納入にしていることで、ロシアやイランなどの経済制裁地域からの参加者への対応などがあげられた。

特に8月は、まだ日本の水際対策も緩和されていなかったため、主催者、参加者共に心労が多かったことと思われる。

・p4c のさまざまな可能性(学会プログラム)

プログラムを見るだけでも、様々な目的と方法で p4c が行われているのがわかる。道徳教育、地域創生のための p4c、いじめの問題解決のため、主体的な学びの育成などの発表項目が見られる。

一例として陸前高田では、震災後にコミュニティ復活のために p4c を行っているなどの実践発表があった。また、主体的な学びの育成についての発表では、海外でも主体的学びを目的として取り組んでいる方が多いということがわかった。

・p4c ハワイと p4c みやぎの特徴と強み

p4c ハワイとみやぎの特徴と強みとして下記の点があげられる。

○大学の先生方と現場とのつながり

他の発表では、p4c の理論と実践の有効性があることはわかっているが、それを現場と繋げられない悩みを公表している事例が複数見られた。そういった意味では、ハワイと宮城の実践は、スタート時点から大学と現場が乖離することなく p4c を進めていると感じる。

○長年にわたる継続的な実践

○一つの学校に留まらない大きなコミュニティ

私立の学校方針としてだけではなく、ハワイや宮城は、複数の公立学校での実践と繋がりがあがる。また、定例研修会やコアメンバー研修、ハワイ大学とのオンライン交流などを通して、広い範囲でコミュニティが繋がっているように感じる。

・白石の中高生大活躍

プレカンファレンスには、白石の中高生たちが、p4c 実践者の開催しているワークショップに参加し、熱心に対話を行っていた。

【研修Ⅱ】 分科会 p4c・情報交換

テーマ「主体的とはどういうこと？」

〈A グループ〉

○授業の中で次第に子供の主体性が薄れていく。どうしたら維持できるのか。

○主体的とは？問い続けること、考えを更新していくことか。挑戦することもあるのでは。

○主体性とは心の奥から湧き出る意欲で、自主性とは行動や活動に表れるものではないか。

○「主体的に」と働きかけることは、本当の主体性と言えるのだろうか。

○感化されたとしてもその子なりの主体性。

〈B グループ〉

○自分から働きかけることであり、思考をめぐらすことでもある。目に見える姿でもある。

○主体的と主体性の違いは何か。先日の高大連携公開講座において、高校生が探究を体験し、主体的に自分とのかかわりで考え、言語化していた。その姿で見取ることができる。

○赤ちゃんは自由で、じっとせずに常に主体的に動いている。主体的といっても生徒は、本当はやらされているのではないか。

〈C グループ〉

○自分で決めること、納得して自分が向き合えることなどが、「主体的」にあてはまる。

○周りの空気を読むなど、状況を察しながら行動することも主体的ということに含まれる。

○周囲の環境に流されがちで、主体的とは言えない自分だったが、周りの状況を読むことも主体的という話を聞いて主体性の新たな気づきがあった。

○生徒を見ていると、心身の状況に応じて一人一人の主体的がある。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp